



한청통신

韓 青 通 信

No.000 創刊準備号

今号のラインナップ:「済州 4.3 民衆抗争 60 周年集会」を開催 / 春期ウリマル教室開講式を全国で開催 / 京都・京畿歴史紀行報告 / 北側オリニパン工場事業本部が東京、東海で結成 / 情勢 NEWS「進展する朝米協議」/「韓青通信」新創刊に当たって

済州 4.3 民衆抗争 60 周年集会を大阪で開催！



4月6日(日)、「済州 4・3 から 6・15 共同宣言、真の解放・統一へ ～済州島 4・3 民衆抗争 60 周年の集い～」が大阪・生野区民センターで開催されました。久しぶりの全国集会。しかも、大阪での全国集会は何年ぶりでしょうか。私たち韓青のメンバーも全国から集結し、スノーフェスティバル(冬期講習会)以来の再会を喜び合いました。

この集会は、済州 4・3 民衆抗争の精神を継承し、在日同胞社会の和合を促進し、祖国の自主的平和統一を実現しようと開かれたもので、会場には、私たち韓青・韓統連・女性会・学生協の全国の仲間たちのほかに、連帯している団体の方々、地域の在日同胞、日本人の方々がたくさん来られ、立ち見が出るほどでした。

韓青では、この集会のために各地域で済州 4・3 民衆抗争についての学習会をおこない、また、文化発表の練習をしてきました。

当日の集会では、犠牲者への追悼と鎮魂のためのピアノ演奏から始まり、4・3 抗争の映像とナレーション、そして、済州島で行われた「済州 4・3 民衆抗争 60 周年記念事業」に参加した代表団から写真を交えての報告などが続きました。

その後、韓青全国で準備してきた「4・3 から統一へ」という文化発表を行いました。「4・3 から統一へ」では、創作舞踊やチャンゴチュム、そして 4・3 抗争の精神を継承し、統一を実現しようという気持ちを込めて、「キョンイソントゴ(京義線に乗って)」のノレ(歌)と律動を披露しました。集会の最後は、参加者全員で肩を組んで輪になり、「ウリエソウォン(私たちの願いは統一)」を合唱して終わりました。

集会後は、参加者で生野の地をパレードし、楽器や風船を使って、「4・3 抗争の精神を継承しよう」「真相糾明を実現しよう」「6・15 共同宣言を支持しよう」とアピールしました。

今回の集会は、ただ単なる犠牲者の慰霊ではありません。4・3 抗争の精神を正しく継承し、祖国の平和統一を願い、実現すること。また、いまだ済州 4・3「事件」と呼ばれ、「アカ(共産主義者)の暴動だった」と言われ続けている「4・3」を「民主抗争」として名誉を回復させることを目的とした集会であり、その意味では、今回の集会は大成功に終わったといえるでしょう。韓青もさらに全国的な絆が深まり、次回の再会を約束して、各地域に帰っていきました。

集会に参加した全国のみんな、本当にスゴヘッスムニダ(お疲れ様でした)！！



情勢NEWS

＜進展する朝米協議＞

朝鮮半島の非核化を目指す6者協議の第2段階措置(=10.3合意)完了に向け、最後のせめぎあいが繰り広げられた。核心は「同時行動原則」だ。つまり、北は寧辺地域の核施設を無能力化し、すべての核計画を正確に申告すること、アメリカはテロ支援国家指定解除・対敵通商法の適用終了の作業を進めることを、並行して履行する問題だ。

北が申告した核計画に対して、アメリカが「完全ではない」と反発し、みずからの履行義務を遅延させたことから、朝米関係は年初から停滞していた。ところが3/13(ジュネーブ)、4/8(シンガポール)と、相次いで双方の6者協議首席代表(北：金桂寛・外務次官、米：ヒル国務次官補)が会談し、アメリカ側が問題視した「高濃縮ウラン問題」「シリアへの核技術移転問題」の解決方法に合意することで、局面は最終段階に差し掛かった。残る争点の「北が保有するプルトニウムの量」も、4/22～/24の米実務陣訪朝で合意に達した模様だ。

こうして現在は、アメリカの履行義務に注目が集まっている。4/30には、米國務省が北をテロ支援国として再度明示したものの、北の非核化措置に合わせてこれを解除するとの約束を履行すると明記した。また米下院では同日、‘核技術の移転をしていないとの証明を大統領に求める’という‘条件付き’ながら、北朝鮮の非核化に必要な資金拠出を可能とするための措置を盛り込んだ法案を可決した。

さらに5/1には、バーシュボウ駐韓米大使が、北が核施設を無能力化し、完全かつ正確に核開発計画を申告すれば、テ



(シンガポールでの朝米協議の後、会見するヒル次官補)

ロ支援国指定の解除と敵性国貿易法適用の中断決定を議会に通知すると約束したことを明らかにしている。

いまブッシュ政権は、北の核問題解決とその後に続く関係正常化に向けて必死だ。イラク攻撃など、あらゆる政策の失敗で、ブッシュ政権は厳しい歴史的評価が下されるのは確実である。‘北の核問題解決’は、みずからへの評価を覆すラストチャンスだ。ブッシュ大統領は、北の核問題を解決することでノーベル平和賞受賞を夢見ているのかも知れない。一方、北側としては、ブッシュ政権と国交正常化ができなくても、クリントン前大統領の訪朝まで可視化させた民主党政権との交渉も念頭においている。

いずれにせよ、‘時間のない’ブッシュ政権が同時行動原則を誠実に守るのか否か？それが今年の朝米関係の行く末を占うカギとなるだろう。

創刊号に向けて、

賛助広告を募集しています！

創刊号に向けて、

賛助広告を募集しています！

活動紹介



ウリマル開講式

韓青では韓国語教室の新たなスタートとなる春期韓国語開講式が各地で開催されています。4月23日の大阪、5月7日の京都、兵庫（西神戸）に続き、11日は東京、12日は兵庫（尼崎）、14日には神奈川で開催されました。

当日はウリマル学習への並々ならぬ意欲と、初めての場所に緊張を隠せない新規受講生を含めた多数の同胞青年が各会場に集いました。式典では授業内容やカリキュラムの紹介、新クラスおよび講師陣の発表、模擬授業などが行われ、当初は緊張気味の参加者たちも和やかな雰囲気の中、今後のウリマル授業に向けた意欲も新たにしました。式典の終了後は交流会を開催し、受講生の誕生日パーティーを行う支部もあり、楽しく親睦を深めていきました。上記地域以外では5月18日、24日にそれぞれ三重の四日市、桑名で、5月21日には愛知で開催予定です。また広島では随時募集しています。



京都・京畿歴史紀行



韓青京都は4月18日から4月20日にかけて、姉妹結縁を結んでいる国内の青年団体、「京畿道青年団体協議会」（京畿青協）との紀行交流事業を京都府内で行いました。今回、京畿青協の紀行団には総勢19名の国内同胞青年が参加。一日目にはウトロ地区のフィールドワークが行われ、国内青年たちは、フィールドワークやハルモニのお話からこれまでウトロ住民らが置かれていた状況などを知り、住民が置かれてきた不遇な生活の苦しさ、現在土地問題が解決に向かっていく喜びを共に感じていました。二日目には朝鮮学校を訪問して生徒とふれあい、清水寺等を観光しました。

また、崔栄子委員長をはじめとした幹部3名による「在日韓国人として生きる」をテーマとした講演も行われ、在日同胞青年の思いを国内同胞青年と共有することが出来ました。交流会ではお互い歌やなどの披露をしあうなど、大いに盛り上がりました。そして、三日目にお互い近いうちに再会することを誓いながら今回の交流事業を終えました。

パン工場東京・東海事業本部結成式

4月、東京（19日）と東海（20日）にて、北側オリニパン工場事業本部発足式が開催されました。「北側オリニ栄養パン工場」事業は、2000年の6・15南北共同宣言以後、民間の南北交流協力事業が活発に展開されるなかで「わが同胞ひとつに運動本部（韓国）」の個別事業本部として2004年にスタートし、現在は約6000人の後援会員に支えられ一日に二万個の栄養パンを継続して生産しており、北側のオリニたちに渡っています。日本では2005年10月に大阪事業本部が発足し、今回、事業の全国展開に向け、東京と東海での事業本部結成となりました。

この発足式では、国内から韓国事業本部の李美恵本部長と孫美姫副本部長が参加。それぞれ、事業に関する講演や映像が流され、多くの在日同胞や日本人々と手をつなぎ、祖国と在日同胞、朝鮮半島と日本の間に平和と信頼を作りだそうという一体感が生まれた発足式となりました。

創刊号に向けて、

賛助広告を募集しています！

創刊号に向けて、

賛助広告を募集しています！

「韓青通信」新創刊にあたって — 文世賢 中央本部委員長

平素より、私たちが在日韓国青年同盟の運動にご支援とご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

韓青は、来たる2010年に組織結成50周年を迎えます。

同胞青年の権益擁護運動に始まった韓青運動は、6・15時代を勝ち取り、現在、在日同胞社会の和合と本格的な統一祖国の建設に向けた準備を行なっています。

日本の友人や先輩方が築いてこられた「正義の運動」を、私たち現役の韓青活動家は、今もなお多くの方々のご支援に支えられながら、そして偉大な伝統を誇りにしながら、力強く前進しております。

そのような大きな使命感と強い決意を持ちながらも、私たち青年に圧倒的に不足しているものが、まさに経験です。韓青の半世紀に及ぶ歴史のいかなる時代においても、輝きを持って活躍されてこられた諸先輩や日本の友人のみなさまと、現在の韓青現役とが再結合することで、韓青運動を一層発展させたいと思っています。

そのような趣旨のもと、「賛助会員制」の始動とともに、機関紙「韓青通信」を新創刊致します。

先輩方や日本の友人のみなさまにとって、現代の韓青の幹部や盟員たちが、どのような思いで、どのようなことをしているのかを、臨場感あふれる形でお伝えできれば幸いです。韓青機関紙「韓青通信」のこれからのご愛読、よろしくお願いいたします。

お知らせ

定期購読（賛助会員入会）のお願い

韓青は、多くの方々のご支援とご協力によって、活動を展開することができています。この運動に対するご理解と、青年たちの決意や可能性に、あたたかい愛情のご支援をいただければ幸いです。

◎機関紙「韓青通信」購読料 一口5,000円（年間）

※詳細は同封の「賛助・ご協力のお願い」をお読みください。

賛助広告のお願い

あわせて、紙面における賛助広告のご協力もお願いいたします。

韓青の機関紙の紙面（広告スペース）を通じて、諸先輩や日本の友人のみなさまが繋がっていくことができれば、幸福の極みです。

是非、ご一考してくださいますよう、よろしくお願いいたします。

編集後記



アンニョンハシムニカ。この度、「韓青通信」編集部担当になりました。どうぞよろしくお願いいたします。

ようやく創刊準備号が出版の運びとなりました。朝米が本格的に急接近し、私たちの祖国を取り巻く情勢が大転換を迎えるこのタイミングでの新創刊。たまたまですが、幸先のよいスタートを切れたように感じます。。。

新創刊号はさらにグレードアップした内容をお届けします。新しい「韓青通信」、ご愛読のほど、よろしくお願いいたします。（李）

「韓青通信（ハンチョンツウシン）」 2008年5月発行（隔月1回15日）No.000 発行：在日韓国青年同盟 中央本部
〒101-0031 東京都千代田区1-8-8 弥助ビル2F TEL. 03-5823-0815 FAX. 03-3851-0815
Website: <http://www.han-chung.com/> E-mail: tongilro@han-chung.com 郵便振替：00160-6-351003

創刊号に向けて、

賛助広告を募集しています！

創刊号に向けて、

賛助広告を募集しています！